

定量的研究について（2）

1. 研究の実例：

「より効果的な語彙学習方略に関する研究—入門期の学習者に焦点を当てて—」三浦宏昭, 2002

1) 研究の目的

・単語を学習する際、（ ）、（ ）、（ ）のうち、入門期の学習者にどれが最も効果的か。

2) 被験者

・大分県内の公立中学校（ ）年生（ ）名（男子（ ）名、女子（ ）名）

3) 刺激材料

・姉崎（2000）で使用された 20 語の中から（ ）語を選んで使用した。（ ）語と（ ）語を 5 語ずつ選んだ（文字数・音節数の平均が均等になるよう留意）。

4) 手順

- ・被験者を6つの集団に分ける（KM, WR, VR の3種類の学習法×直後テスト, 遅延テストの2群）。
- ・発音を5回ずつさせる→15分間学習
- ・英単語を見て日本語訳を答えさせるテストを実施。「直後テスト群」は学習直後、「遅延テスト群」は（ ）後に行った。

5) 結果

・使用した統計分析の手法は（ ）。

		直後	遅延
KM	具象語		
	抽象語		
WR	具象語		
	抽象語		
VR	具象語		
	抽象語		

どこに差があるかを見た

・有意だったのは以下の2つ

- ① 具象語 > 抽象語, ② 直後テスト > 遅延テスト

6) 考察

- ・有意ではなかったが、（ ）群が最も多くの英単語を学習していた。理由は「記憶研究の理論」、「テスト形式」、「品詞」、「単語の数」、「被験者の年齢」が考えられる。
- ・WR群が低かったのは、中学1年生が（ ）作業に慣れていなかったからかも。
- ・直後テストでは「VR>WR」だったが、遅延テストでは「WR>VR」となった。VRの方が学習の負担が軽かったため、記憶が長続きしなかったのかも。
- ・具象語の方が抽象語よりも覚えやすい。

2. 研究計画の作成